

北陸支部経営実務研修会開催

－ 10月29日 －



開会の挨拶をする
北陸支部長 荒木章氏

北陸支部主催の経営実務研修会が、10月29日(月)金沢市のホテル日航金沢で開催された。当日は会員卸10社21名、賛助会員43社46名が参加し、事務局の有側直人氏(カナカン(株))の司会進行で始まり、冒頭支部長の荒木 章氏(カナカン(株))が挨拶し「日食協は、卸の機能向上はもとより食品流通全体の品質アップを目指した組織・研究会でございます。その活動範囲は広く多岐にわたり、食品の中間流通として社会全体を俯瞰し国の行政に対し意見を具申しております。さて、NHKの朝の連続ドラマ小説『まんぷく』が放映されていますが、モデルは日清食品の創業者、安藤百福さんの奥さんがヒロインです。ドラマのテーマは『食べる事が生きる事・食べる事は幸福の原点』『食事を共にすることは交流と団欒そのもの』であります。食品を扱うものとして視聴率が高いのは、誠に嬉しい限りです。自然災害の多い昨今、食品産業は社会の重要なインフラです。誇りと共に責任の重さを自覚し、より安心・安全な食品を安定供給していく使命があります。食品流通業界は競合から協調へ、協調から協力へ進化が必要です。足の引っ張り合いではなく、手の引っ張り合いが重要です」と述べた。

ついで奥山則康専務理事が日食協事業活動報告を行い、消費税増税と軽減税率制度についての業界対応について、また物流環境改善のため取組んでいる会員卸向けの「トラック入荷受付・予約システム」の開発の現状について報告した。続いて講演の部に入り、(株)日



開宴の挨拶をする
澤田悦守氏

本経済新聞社編集局調査部次長の白鳥和生氏が登壇し「最近の流通・消費を巡るキーワード～応援される企業の時代～」と題して講演。「既存のビジネスモデルの中での利益最大化ではなく、これからの社会における影響力、貢献価値の最大化を目指す、といった視点が今後ますます重要になってくる」と話された。



講演する白鳥和生氏

終了後懇親会を行い、開宴の挨拶を副支部長の澤田悦守氏(北陸中央食品(株))が行い、中締めを藤井伸子氏(マルコク(株))が行って閉会した。



中締め挨拶をする
藤井伸子氏



北陸支部経営実務研修会 会場

東北支部経営実務研修会

— 11月8日 —



開会の挨拶をする
東北支部長 佐藤淳氏

東北支部は、11月8日（木）仙台市のホテルモントレ仙台に於いて経営実務研修会を開催した。当日は午後3時より副支部長の物井敦氏（国分東北（株））の司会進行で経営情報交換会が行われ、奥山専務理事から「消費税軽減税率制度の対する業界対応」について説明した。

午後3時半から場所を移して賛助会員も加わり経営実務研修会を開催。事務局の佐藤高志氏（国分東北（株））の司会で始まり、最初に支部長の佐藤 淳氏（佐藤（株））が挨拶し「東北地方の経済は、全体としては緩やかな回復基調が続いているといわれているが、政府が定めた震災からの復興期間も残り2年となっている中、震災による避難者はいまなお約5万7千人おり、風評被害についてもいまだ完全には払拭されておらず、復興は道半ばの状態にある。さらには東北地方では、人口減少・少子高齢化が全国で最も早く進展するなど、雇用のミスマッチや人手不足がこれまで以上に深刻な問題となっている。人口減少・少子高齢化は、エリア内の需要縮小だけではなく、生産年齢人口を減少させ、地域経済活動の停滞をもたらす大きな問題。若者の地元への還流・定着にむけ、新たな産業の集積と雇用の創出が急務。消費増税及び軽減税率制度への対応では中小企業の経営者の負担は大きく、この影響で市場が再編されれば東北における商環境はさらに厳しい状況になる」と述べた。

ついで奥山則康専務理事が協会活動報告を行い、今年度の重点課題に掲げる軽減税率制度への円滑な対応に向け、春に取りまとめた「消費税軽減税率対応企業間取引の手引き」の改訂版を11月上旬に協会のHPで公開したことや業界標準のトラック入荷受付・予約システムの開発状況について報告した。続いて講演に部に入り日本経済新聞社の白鳥和生氏が「流通

と消費を読み解くキーワード」をテーマに講演。終了後懇親会を行い、開宴挨拶と乾杯の発声を秋元 隆氏((株)サンヨー堂)が行い、中締めを小泉直己氏(ハウスウェルネスフーズ(株))が行って閉会した。



講演する白鳥和生氏



東北支部経営実務研修会 会場

関東支部経営実務研修会開催

— 11月9日 —



開会の挨拶をする
関東支部長 佐々木淳一氏

関東支部は11月9日(金)日暮里のホテルラングウッドに於いて経営実務研修会を開催、約70名が参加した。会の冒頭の挨拶で関東支部長の佐々木淳一氏((株)日本アクセス)は「消費税増税による政策の中で日本が遅れているキャッシュレス促進が併せて検討され流通にも大きな影響があると思われる。業界は同時に導入される軽減税率制度への対応もある。協会が発信する情報をベースに各社が方針を定め円滑な対応を図って欲しい。物流問題では、我々業界はトラックの待機時間の短縮が求められている。この件に関し国から補助金をいただき、業界標準のトラック入荷受付・予約システムの開発を進めている。システムはほぼ完成し今後は会員に対して周知と普及拡大を目指す」と語った。

続いて、奥山則康専務理事が事業活動を報告。食品流通を取り巻く情勢や、このほどHPに掲載した「消費税軽減税率対応企業間取引の手引第2版」について説明。また食品の物流は長時間拘束や手積み・手降ろし等荷役作業等ドライバーへの負担が大きいことなど物流課題に触れ、業界標準の「トラック入荷受付・予約システム」をクラウドサービスで提供できるよう開発を進めており、導入によって現状のトラック待機時間平均1時間45分から3割削減を目指す」と述べた。講演会では「流通と消費を読み解くキーワード」と題して、日本経済新聞社の白鳥和生編集局調査部次長が講演し、急速なデジタル化と生活者の価値観の変化の中で流通業に求められる様々な課題を持ち前の分かりやすい言葉で語った。その後、懇親会を行い、開宴挨拶を

渡辺 徹氏(三井食品(株))中締めを新網博信氏((株)サンヨー堂)が行い閉会した。



講演する白鳥和生氏



関東支部経営実務研修会 会場

東海支部・中食連合同懇談会開催

— 11月13日 —



開会挨拶をする
永津邦彦 中食連会長

日本加工食品卸協会東海支部並びに中部食料品問屋連盟は11月13日、共催し正会員・賛助会員合同懇談会を名古屋観光ホテルで開催し約230人が参加した。

合同懇談会は中部食料品問屋連盟・永津邦彦会長の開会挨拶に始まり、講演の部としてホスピタリティコーチ・米国NLP協会認定NLPコーチの山本忍氏による「イマドキ部下とうまく付き合うためのビジネスホスピタリティ」を演題に、若者とのコミュニケーションの取り方や求められているのはフォローシップであること、パワハラにならない言い方や接し方などを紹介し、人を動かすのは「かけがえない想い」であり、まずは目の前の人を笑顔にすることが大事と解説し聴衆から好反応を得

た。

懇親会は中部食料品問屋連盟・三浦浩一常任理事の挨拶に始まり、カゴメ・稲垣慶一名古屋支店長が「部下とのコミュニケーションは私自身、大きな課題である。『問題がない』との報告に安心してしまい、その裏で大きな問題が進行し、問題が露見した際には原状回復により多くの時間・労力を要する苦い経験をしてきた。自分にとって不安になる不都合や不利益な情報こそが宝の山であり、それらをいかに容易に捕まえられるかが重要であり、中部食料品問屋連盟の懇談会の場は参加する者として非常に有益であり価値が高い。今後も引き続き賛助会



講演するホスピタリティコーチ・米
国 NLP 協会認定 NLP コーチの
山本忍氏

員として連盟の活動をサポートしていきたい」と乾杯の音頭をとった。

歓談が行われ後、味の素・久我章良名古屋支社長が「今回の講演は色々と考える良い機会となった。若い世代と価値観のギャップが生じることは昔からあり、江戸時代や明治時代の文献などにも残っている。一方で若者は上の世代に厳しい眼を向けており、互いに尊重し合い責任を持つということが重要。年末商戦も各層が互いを尊重することで食品業界を盛り上げていきたい」と中締めを行った。

永津会長

中部の食品業界は比較的变化が少ない市場であったが、今は大きな変化の真っ最中であり全く予期しない出来事が起こっている。小売や卸などの部分だけでなく流通全体が変わろうとしている大きな潮目であり、今こそ卸が力を合わせて果敢にチャレンジし、新しいイノベーションを起こしていく必要がある。卸としてどのようなチャンネルで、どのようなスタイルで商売を行っていくのが良いのか、状況やニーズを見極めて知恵を出し合い対応していきたい。

中部食料品問屋連盟は全国でも珍しい卸が相互協力して様々な活動を行っており、卸だけでなくメーカーなどからも活動内容も評価いただいている。今後も業界の発展に寄与していきたい。



合同懇談会 会場

九州・沖縄支部連絡協議会・賛助会員連絡会開催

— 12月3日 —



総会で挨拶する
網田支部長

九州・沖縄支部は12月3日(月)博多ANAクラウンプラザホテルに於いて17時より連絡協議会を開催。支部事務局の御船弘久氏(ヤマエ久野(株))の司会進行で始まり、最初に九州・沖縄支部長の網田日出人氏(ヤマエ久野(株))が開会の挨拶を述べ、議案の審議に入り、平成31年度九州・沖縄支部及び各県同業会主催新年交礼会についての確認を行った。ついで各県同業会の活動内容を報告、またこの後行われる賛助会員連絡会の議事内容について説明があった。最後に奥山専務理事が本部活動報告として11月6日に行われた理事会の報告述べた。18時から会場を移して賛助会員連絡会を行った。

最初に、網田支部長が挨拶し「業界の課題としては物流環境が大変厳しく、最近のメーカーの値上げの要因も人手不足による物流費の高騰にある。卸業界としては昨年共同物流への取組み宣言を行い、共同化への本格的な取組みが始まっている。そのため福岡地区協議会の活動も強化していきたい。また来年10月からの消費税増税と軽減税率制度への業界対応が大きな課題となる」と述べた。次いで支部事務局から連絡協議会と同様の内容を報告。最後に奥山専務理事が日食協活動報告として「軽減税率制度への業界対応方針」を説明した。終了後懇親会を行い、開宴のご挨拶を賛助会員を代表して白羽 弘氏(味の素(株))が行い、中締めを本村陽一氏(コゲツ産業(株))が行って閉会した。



九州・沖縄支部連絡協議会 会場